

ちいさな子どもからおおきな子どもまで、 こころの働きの困りごとに対応します

子どものこころ診療部は、子どものこころの問題の診断・治療を専門とする、全国でも数少ない診療部です。こころが危機的状況にある子どもを救出し、支援することを目指しています。

待望の予約診療開始

平成23年10月、福井大学医学部附属病院に、「子どものこころ診療部」が開設されました。子どものこころ診療部は、病院外来棟2階にあり、小児科外来と隣同士です。小学生たちの描いた個性的な壁紙が飾る待合室をはじめ、診察室に至るすべての設備が9月にお披露目され、10月からは福井県民待望の予約診療が始まりました。

各分野の専門家が連携して対応

当診療部のメンバーの多くは、福井大学子どものこころの発達研究センターにも所属しています。この研究センターは、子どもの「こころ」の問題を解明・治療・支援するための研究・活動を行うことを目指して設立されました。現在、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学と協働して問題解決に向け日々努力しています。

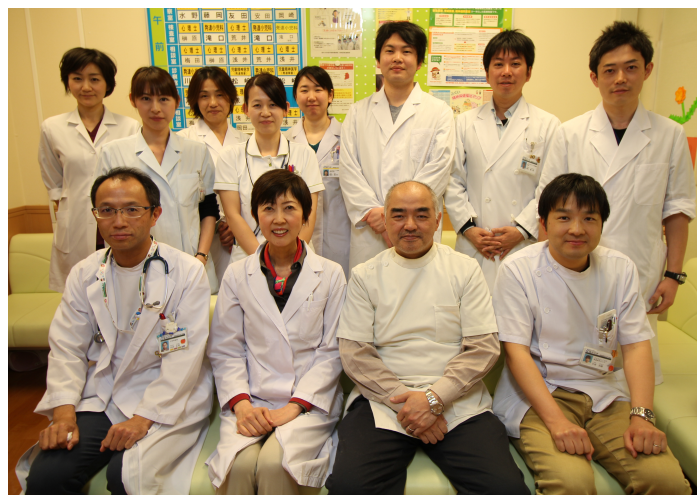
研究センターでは、脳の発達の子・細胞レベルでの研究や、ヒトの脳の活動を

可視化し脳の機能的発達を追う基礎的な研究、不登校や引きこもり、犯罪の低年齢化などの子どものこころの問題を解明し、治療・支援するための研究など、数多くの活動が展開されており、それぞれの分野の専門家が多数そろっています。子どものこころ診療部では、これら専門家との連携のもとで、子どもへの診療が行われます。

こころとからだを総合的に診断

子どものこころの問題は、単に、こころだけにあるのではなく、それが宿るからだの問題と切り離すことはできません。どちらかに偏った診かたでは、子どもの問題の本質を見誤ることになりかねません。

当院の子どものこころ診療部の特徴は、両方を科学的に評価できる有能なスタッフがそろっていることです。どうぞ、ためらうことなく来てください。こころとからだの困りごとに対応します。



カンファレンス風景



カウンセリングの様子(イメージ)



福井大附属小2年生による動物の絵が描かれた診察室

子どものこころ診療部のご案内

小児科と精神科の混成チームで 多様なこころの問題に向き合っています

子どものこころ診療部は乳幼児期、学童期、思春期、青年期における「こころ」の問題の診断、治療のために開設された診療部です。

近年、「子どものこころ」の問題は、不登校・ひきこもり、睡眠障害、小児心身症、教育現場で問題となっている軽度発達障害、「キレる」などの凶悪化・低年齢化する少年犯罪や反抗挑戦性障害・行為障害(非行問題)、天災・人災・子ども虐待による心的外傷後ストレス障害(PTSD)など多岐にわたっており、また社会的にも極めて重要な問題となっています。

そのような中、「こころ」の問題を訴えて医療機関を受診する子どもが増えています。児童精神科領域とされるこれらの問題は、実際には精神科と小児科の合間にあり、未解決な問題が山積しています。

当診療部では、子どものこころに対する高度な医療を福井の地で提供することができるよう、大学・市民連携のもと、地域に根付いた活動をしていきたいと考えています。

【診療体制】

当診療部は、乳幼児、学童、思春期、青年期における「こころ」の問題の診断、治療のために開設された診療部です。原則として18歳までの子どもさんを対象に、発達やこころのさまざまな問題を取り扱います。そのために小児科と精神科双方の医師が診療に当たっており、混成チームとして構成されているというのが最大の特徴です。

スタッフは、小児科医(水野、川谷、滝口、松崎、友田)、精神科医(小坂、岡崎)、心理士(藤岡、荒井、浅井、等数名の非常勤心理士)、看護師、および受付事務の診療体制で取り組んでいます。

【診療部の特色】

学習障害(LD)や注意欠陥多動性障害(ADHD)などのいわゆる軽度発達障害、過敏性腸症候群などの心身症、不登校、小児の心的外傷後ストレス障害(PTSD)や不安障害、チック、抜毛、吃音、遺尿・遺糞など、子どものこころもつ多様な問題に向き合っていきます。より質の高い地域貢献を目指すため、これからも努力していきます。

【心理士との連携による当日検査実施】

当診療部は完全予約制となっています。お子様の症状に悩まれ、遠方から受診される患者さんも少なくありません。当診療部では、診察で検査が必要と判断された患者さんに、当日の診察終了後に心理発達検査を受けていただけるよう、常時、専門の心理士が配属されています。

検査結果は、患者さんへの迅速かつ適切な治療方針の決定に反映されるため、遠方から来院された患者さんおよびご家族の方に大変喜ばれています。